

退職後も 前向き人生



皆さん、まちづくりセンターや南薫造記念館でシュロの猪を見たことはありませんか!?

作ったのは中畑在住の89歳亀本朗(あきら)さん。定年退職後、植木職人として約8年間腕を振るわれました。今では毎年安浦町文化祭へ盆栽を出展し、会場入口の作品は観客の目を奪っています。また、安浦中学校の卒業式にも「松の盆栽」が飾られ、式典に重厚さを増しています。試行錯誤のうえ育てた作品を多くの人たちに見てもらえることが、明日への糧となっています。作品と会話し共に生きる一日は、趣味が多く充実した毎日です。



力作の数々

←シュロで作った猪

亀本さん→

安浦町にやってきた4人の精鋭達

昨年7月の豪雨から1年が経過した今、安浦町では各所で災害復旧工事が進められています。この工事のために、川尻安浦土木出張所(安浦市民センター内)だけでは人手が足らず、応援に来てくれている4名の自治体職員を紹介します。

・さいたま市の濱田 将平さん(31)・高崎市の黒沢 健さん(32)・静岡県の中戸川 達矢さん(39)・静岡県の久保田達也さん(48)

今回、普段の職場を離れ安浦町に来たことで全く違う環境で仕事をし、「今までにない価値観の中で、これからの人生に役立つ経験をさせてもらっています。」と語ってくれた皆さん。「安浦町民は、みんなあたたかい。」そう感じ、安浦町のために前向きに働いている皆さんは、土木技術のプロで災害復旧工事の設計から監督までを担い、真っ黒になって働いておられます。

濱田さん・黒沢さん・中戸川さん・久保田さん、よろしくお願ひします。



・後列左から久保田さん・黒沢さん
・前列左から中戸川さん・濱田さん

安浦を元気にする活動

平成30年7月豪雨 復興誓う石碑の建立

昨年の豪雨で安浦町は4名の尊い命が失われ、多くの家屋・農地が被害を受けました。その犠牲になられた方々への哀悼の意を表すとともに、この大災害を記録し後世に伝えるため、安浦町まちづくり協議会が石碑をまちづくりセンターの玄関前に建立しました。石は豪雨で山から流出した花崗岩を使い、被害の大きさも刻まれています。



建立された石碑

7月31日に新原市長・安浦町在住の市会議員・自治会の代表会長・市民センター長・まちづくりセンター長・安浦中学校生・まちづくり協議会など、約100名が出席し除幕式を行いました。

協議会の田中会長は「石碑を通じて被害を語り継ぎ、防災意識を高めてほしい。」と話されました。



参加者の皆さん

いにしえ 古の知恵

古代の安浦は、野呂山が海岸まで迫っており、経済の根底をなしていた「米」の増産を図るため棚田が発達した。しかし、農業用水が常に不足していた為、溜池・水路等が工夫築造された。昨年7月の豪雨で多くの棚田が流されたのが惜しまれます。(今年は災害のため作付けが減少しているため以前の棚田写真を使用)



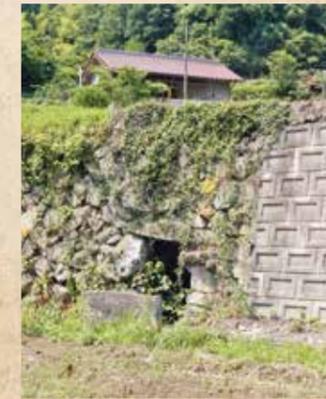
知恵 その壱

■溜池～呉市で一番多い。
658ヶ所(呉市調査)
溜池は次の3種類に分けられる。
①広島藩が費用を出して作らせた池
②共有の池
③個人所有の池



知恵 その弐

■田の耕地面積を増やす為、地下に水路がある水洞式棚田を作った(次の4か所)
●下垣内
●内平の長城田
●中切の鳴石
●安登の源道尻



知恵 その参

■大がかりな水路(井手)の築造
①安登(僧道弁の井手)⇒1190年頃 寒風～下跡条の約6km(池を作り遠くまで水を運んだ)
②内海(弥四郎井手)⇒1814年頃 中切～岡田の約2km(川の高低差を利用して棚田に水を運んだ)
③内平の井手⇒江戸時代 原畑川～内平まで山の峰を迂回した約3km(谷から谷に水を運んだ)

おでかけ情報

9月	おしゃべりサロン	毎週(火・木・金) 10:00~15:00	安登駅前駐輪場2階
	シアター(映写会)	9/21(第3土) 10:00~12:00	安登駅前駐輪場2階
	安浦地区育児相談室	9/27(金) 10:00~11:30	安浦保健出張所1階健康増進室
	カノン・ドレミの音楽at安浦	9/28(土) 15:00開場	やまき醤油醸蔵
	チェロアンサンブルコンサートin広	9/29(日) 9:45開場	安浦小学校体育館

10月	おしゃべりサロン	毎週(火・木・金) 10:00~15:00	安登駅前駐輪場2階
	さわやかクッキング	10/11(金) 10:00~12:30	安浦保健出張所(参加費400円)
	安浦地区育児相談室	10/18(金) 10:00~11:30	安浦保健出張所1階健康増進室
	シアター(映写会)	10/26(第4土) 10:00~12:00	安登駅前駐輪場2階
	ストレッチング教室	10/29(火) 13:30~15:00	安浦保健出張所

11月	おしゃべりサロン	毎週(火・木・金) 10:00~15:00	安登駅前駐輪場2階
	弘法寺25年ぶりの御開帳	11/2(土) 10:00~	野呂山弘法寺(稚児行列・大法要・餅撒ぎ)
	弘法寺25年ぶりの御開帳	11/3(日) 10:00~	野呂山弘法寺(法要・火渡り)
	さわやかクッキング	11/8(金) 10:00~12:30	安浦保健出張所(参加費400円)
	シアター(映写会)	11/23(第4土) 10:00~12:00	安登駅前駐輪場2階
	ストレッチング教室	11/21(木) 13:30~15:00	安浦保健出張所
	安浦地区育児相談室	11/29(金) 10:00~11:30	安浦保健出張所1階健康増進室

12月	おしゃべりサロン	毎週(火・木・金) 10:00~15:00	安登駅前駐輪場2階
	さわやかクッキング	12/13(金) 10:00~12:30	安浦保健出張所(参加費400円)
	ストレッチング教室	12/17(火) 13:30~15:00	安浦保健出張所
	安浦地区育児相談室	12/20(金) 10:00~11:30	安浦保健出張所1階健康増進室
	シアター(映写会)	12/21(第3土) 10:00~12:00	安登駅前駐輪場2階

やすうら 記憶 遺産

寺迫西福寺境内



近世以降の新開で陸地となった現在の安浦中心部

この絵は、現在の安浦町の中心部、内海（うちのうみ）の近世以前の姿を想像して描かれたものです。内海の名前が示す通り、往古は陸地に深く入り込んだ海を持つ地形でした。

瀬戸内海は、白砂青松と称される海辺の松が人の心を引く風景とされていますが、かつては照葉樹の広がりによって人々の安住が適った土地でした。この古代からの自然植生を今に伝えるのが、内海の亀山八幡神社の社叢です。入り海を眼下にする照葉樹の森に早くから人々が住み、その痕跡が貝塚という形で入り海の北、そして奥地の平木（ひらき）周辺に残されています。高台から見下ろすこの絵の視点で安浦をあらためて見回すと、歴史の重要スポットが入り海だったころの海岸線沿いに残されていることが分かります。

安浦の歴史はどのように作られたのでしょうか。ひとつは、この海があったこと。入り海の最奥地には造船所が営まれ、照葉樹の森を伝い内陸と海を結ぶ道の要衝となった内海には、道と所領を制する権力者が登場します。中世に入ると、それらの中から土豪と呼ばれる集団が誕生し、内海氏、南氏らが様々な文化をもたらしました。

ここは、ロマンあふれる入り海の、波がさざめく中世の安浦。想像しながら歴史絵巻をひもとくビュースポットと言えます。現在の西福寺周辺から眺めることができます。想像の翼を広げて下さい。



寺迫西福寺境内

安浦ブランド 実成のイチジク

安浦町実成果樹生産組合 組合長 矢田部光治さん
呉市安浦町中央7丁目2-11 ☎84-7988

野呂川河口に位置する実成地区の一面に、イチジク畑が広がっています。

当地では、昭和30年代から早生日本種の「蓬萊柿（ホウライシ）」を導入し、枝を左右に伸ばす一文字低樹仕立てで栽培を始まりました。

昭和59年には10戸の農家が実成果樹生産組合を結成、各農家において統一した情報を共有して生産技術向上につなげ、いま呉市場ではブランドの地位を確立しています。

イチジクは昔から「不老長寿の果物」といわれ、特にコレステロール値の上昇を抑制する働きや、身体のなかにある余分な塩分や水分を排出し、むくみ対策にも効果があるとも言われ、**糖尿病が不安な方、血圧高めの方にもおすすめです。**

今月は出荷の最盛期です。朝早くから寝る間も惜しんで働き、現在は7戸となりましたが互いに助け合い、みんなで安浦イチジク産地を守ります。



イチジク畑と果実



打合せ会議中の皆さん

左から神田さん・桐山さん
青果市場：城さん・矢田部会長
松森さん・木坂さん・田村さん
代理の中下さん・(欠席:新谷さん)



藤田商店



呉市安登西10丁目4-4(小田野原団地) TEL0823-84-5399(090-1333-0649)



♪かわいい かわいい 魚屋さん♪の音楽と共に、家の近くにやってくる魚屋さん。

店主の藤田隆さんは、スーパーの鮮魚部門・広島中央卸売市場の仲卸事業所勤務の後、平成22年7月に安登で開業しました。

軽トラックを使った行商スタイルで、食の安全・安心・満足をモットーに、魚のすばらしさや食べることの幸せを届けたいと、鮮魚・刺身・惣菜などを載せて安登・原畑・内平・女子畑と川尻町の一部を回っています。

仕出し弁当の注文にも応じますので気軽にお電話ください。とのこと。安浦町や川尻町の一部は商店が少ないため、買い物に不自由する人たちを支えたいと、妻の諭美(ゆみ)さんと2人3脚で頑張っています。

これからは、商圈を安浦町全域と川尻町にも広げ、弁当宅配も取入れ、よりよい食生活に貢献できればと思っています。お2人のやさしい笑顔に地域の人たちへの思いが伝わりました。



写真でみる今と昔

安浦アーカイブ

時代とともに様変わりする景色や人々の暮らし。懐かしい風景をご覧ください。

安登西1~3丁目



昭和45年当時の安登岡谷地区の写真。緑の林に囲まれた集落であり、集落の上にも開墾された畑が広がっていた。



集落は竹と木々が広がり、家々は下側の平地へと移ってきた。また集落の山側にあった畑は林にかえり、国道沿いには工場が進出した。

三津口1丁目



昭和36年当時の三津口漁港付近の写真。船は木造船であり、国道沿いに三輪トラックが停車している。



三津口漁港に武智丸2隻をベースにした防波堤ができ、漁船も木造船からFRPに変わった。また国道185号線も2車線の立派な道となった。